

平成29年度行政評価 施策評価シート (平成28年度実績)

施策名 安全で快適なまちづくりの推進

施策コード

060502

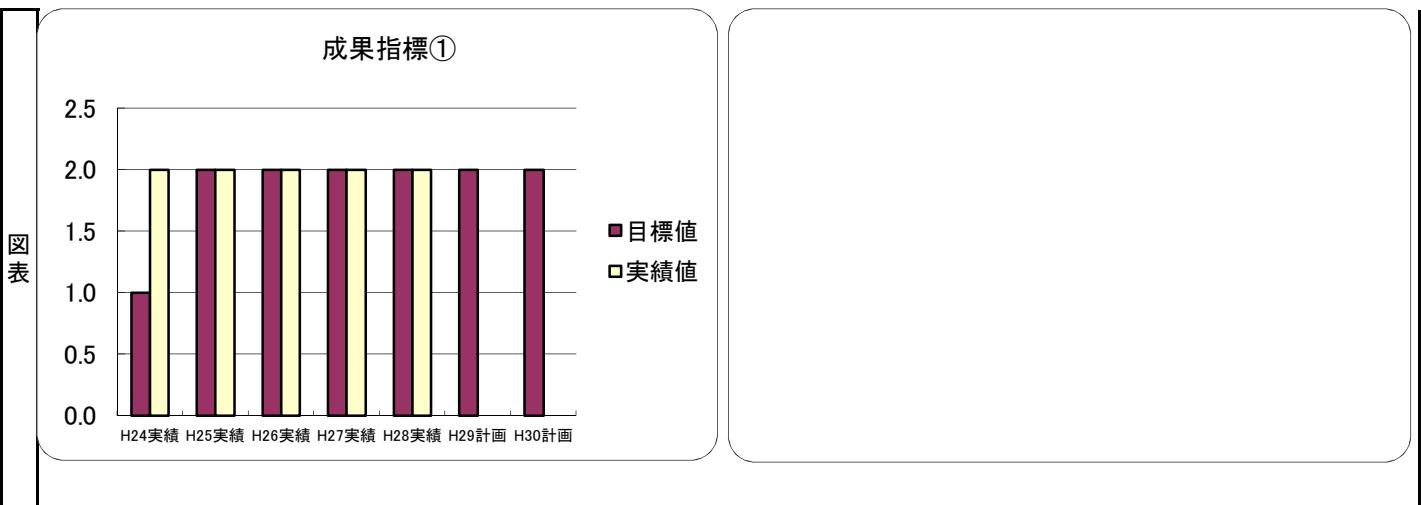
1. 施策の担当	
主管課	都市整備部 都市計画課
関係課	

2. 総合計画における位置づけ				
総合計画	政策	第6章 心地よく、くつろぎを感じるまちづくり（快適・憩い）	節	第5節 市街地整備
	施策	安全で快適なまちづくりの推進		
基本方針				
・市民と協働でバリアフリー化や防災に強いまちづくりを進め、安全で快適に暮らせるまちづくりを推進します。				
現況と課題				
・高齢者、障害のある人をはじめあらゆる人々が、安全で快適に暮らせるまちづくりを実現するため、JR日根野駅周辺地区及び南海羽倉崎駅周辺地区について泉佐野市バリアフリー基本構想を策定しました。今後は、対象となる地区の基本構想を策定していく必要があります。 ・沿岸市街地地域などの比較的古い木造建築物が多く、道路幅員が狭い地区については、倒壊及び延焼の危険性や消防活動に支障をきたすことが想定されることから、防災上の対策が必要です。				
施策目標				
対象（誰を、何を、どこを）				
市民				
意図（どのような状態にしたいのか）				
高齢・障がいのある人をはじめあらゆる人々が、安全で快適に暮らせるまち。				

3. 市民ニーズ							
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
満足度（偏差値）	41.0						
重要度（偏差値）	55.7						

4. 施策にかかるコスト							
コストの内訳	単位	H27決算	H28決算				
	千円	0	0				
		0	0				
財源内訳	千円	0	0				
		0	0				
		0	0				

5. 施策の成果指標							
① 成果指標 1	バリアフリー基本構想の策定地区数（累計）						
項目	H24実績	H25実績	H26実績	H27実績	H28実績	H29計画	H30計画
目標値	1.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
実績値	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0		
達成度	200.0	100.0	100.0	100.0	100.0		
指標設定の根拠		目指そう値の設定根拠		目標達成・未達成の理由・背景			
バリアフリー法に基づく基本構想策定地区数等により、駅及び駅周辺道路と生活関連施設のバリアフリー化の進捗度が分かります。		JR日根野駅（H19）、南海羽倉崎駅（H24）の基本構想策定に基づくバリアフリー化を終え、H27年度はりんくうタウン駅の内方線を設置。今後は1日当り3千人以上の乗降客数がある駅で未整備となっているバリアフリー化を目指としています。		JR日根野駅については、平成19年度にバリアフリー基本構想を策定、南海羽倉崎駅のバリアフリー基本構想を平成24年度に策定した。平成27年度はりんくうタウン駅の内方線を設置。平成29年度に1日当り3千人以上の乗降客数がある南海鶴原駅、平成30年度には南海井原里駅のバリアフリー化をめざす。			



6. 施策の事後評価

一次評価 (担当課による評価)	判定項目	評価点	評価理由、今後の方向性等
	施策の成果レベル (過去の推移、周辺市との比較なども含む)	(4点中) 4	JR日根野駅のバリアフリー基本構想に引き続き、H24年度に羽倉崎駅周辺のバリアフリー基本構想が策定できました。
	施策に対する市民ニーズ	(3点中) 1	高齢者や障害者をはじめとする、全ての人々が暮らしやすいまちづくりを実現するため、バリアフリー化の推進が望まれている。
	施策を取り巻く状況 (法令等の動向、国・府の政策の動向、社会潮流など)	(3点中) 3	高齢者や障害のある方なども含めた、あらゆるひとたちが社会活動に参加し、自立した生活を営むことができる為の施策がもとめられている。平成18年12月に「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」が施行
	合計点	(10点中) 8点	
	総合評価	B	JR日根野駅や南海羽倉崎駅のバリアフリー化、りんくうタウン駅の内方線の設置が終わり、今後は南海鶴原駅、井原里駅のバリアフリー化に向けて検討を進めていく。
二次評価 (政策推進課・行財政管理課による評価)		B	施策をより有効に評価できる新たな指標の追加の検討が必要である。
三次評価 (理事者による評価)		B	施策をより有効に評価できる新たな指標の追加の検討が必要である。

7. 施策を構成する事務事業

予算コード	事務事業名	H28年度決算額			H29年度予算	一次評価
		人件費	事業費	一般財源		
合計		0	0	0	0	0